

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	教育学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育学部設置認可申請において示した教育学部の理念・目的の学生及び教職員への周知を徹底する。	→「学部入学式、チャペル、各種実習のガイダンス、就職セミナーなどにおける学部の理念・目的の周知徹底の頻度」	B	B	B		
2. 学部の理念・目的について、その周知方法の適切性を評価分析する。	→「学部長室委員会及び学部広報委員を中心にして、周知方法の改善策の検討頻度と進捗状況」	C	C	C		
3. 学部完成年度以降の将来ビジョン策定において、学部の理念・目的の再検討を行い、新たな設定を行う。	→「学部の将来ビジョン委員会における2013年度以降の学部再編計画および理念・目的の検討状況」	A	A	A		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	学部入学式、チャペル、各種実習のガイダンス、就職セミナーなどにおいて学部の理念・目的の周知徹底を図った。
目標2	周知方法の改善については、十分な議論ができなかった。
目標3	学部の将来ビジョン委員会および教育学部再編検討部会の議論をもとに、2013年度以降の学部の再編構想を立案し、学部将来ビジョン委員会、大学の教育学部再編準備部会、新構想委員会などでの協議を経て、2012年4月に新学科の「届出」を文部科学省に提出した。
備考	

☆